

「方法」についてイマイチしっかり理解できず、ゲスト講義のときの「人に簡単に理解されないのが方法だからね」という足立さんの言葉だけが頭に残ったまま「新・方法」の講義を受けることになりました。

中ザワ先生のお話を聞いていてまず思ったことは「新・方法」のほうが写真の作品が多いな、ということ。これは勝手な思い込みなのかもしれないですが、「方法」の時の作品はただ何らかの規則にのっとってとにかく文字が羅列しててぱっと見て？がたたくさん頭の上に出てくるようなものが多かった気がします。しかし、「新・方法」では新・方法主義者の3人が滝に打たれている写真を作品にしていたり、またライブ中継でジグソーパズルを組み立てたり、となんのためにどのような方法でそれが行われたのかはよくわかりませんが、何をしているのかはわかる作品が多いなという印象を受けました。また、「ハイレッド・センター」を意識していると考えられることを行っているため「方法」ほど理解しにくいという印象はありませんでした。また、「方法」は美術、文学、音楽の型にはまることなくさまざまなことを3人で行っていたようで、音楽があったり詩があったりと普通の芸術家は行わないであろうこともやっていたように思われます。けれども、「新・方法」においてはそれぞれ取り組んでいることがそれに比べて似ているように感じました。

しかし、最初に記したように私は「方法」自体をよくわかっていないので、しっかりと比較することができず先生には本当に申し訳ないのですが、「新・方法」もあまりピンときていないのが事実です。ただ、宝くじを買ってみたり、早起きを試してみたりと結果を重視するのではなく、その過程を重視していると思われる部分は「方法」と通じるところがあると私は思いました。また「方法」の時は3人の意見が同じではなく、少々の対立も感じられましたが、「新・方法」ではほぼ同じ方向を向いて作品を作って活動をしているように感じられました。

それと私の勝手な解釈ではありますが、「新・方法」は現在進行形で「新・方法」とはこれだ！という風に形が決められておらず、まだまだ変化をしていくと思われるので現段階では「方法」とのはっきりとした比較や違いを語ることは難しいのではないかと思います。「新・方法」も「方法」と似た部分もあるのでもしかしたら「方法」に近づいていく場合もなきにしもあらず。しかし、先生が「方法」と「新・方法」は結構違うとおっしゃっていたのでそれはないかなあ、と考えながら2回の授業に参加させていただきました。

「方法」のゲスト講義を聞いても実はピンときていなかった私は「新・方法」のゲスト講義では理解できるといいなと思っています。